



「九段坂五月夜」 明治13年 大判錦絵



「アラビアンナイト」 水彩・紙



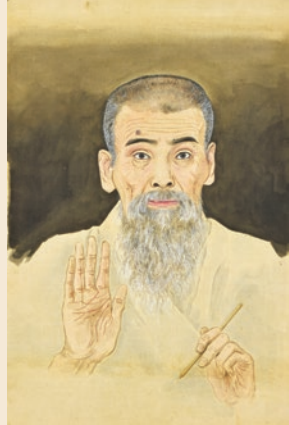
「写生帖」 明治11年～大正2年ごろ 水彩・紙



「立雛図」 明治時代後期 絹本着色



土屋光逸「雪の堅田 浮見堂」 昭和9年 木版画



「自画像」 明治末年ごろ 紙本淡彩



「芥川函手箱」 木製紙貼着色

SCULPTURE

メンサリ増補

小林清親

収蔵作品による

11.23 [祝] ー 来年 1.30 [日] 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

※月曜休館(ただし、1/10祝は開館。1/11火・年末年始は休館)。

小林清親(弘化4年(1847年)~大正4年(1915年))は江戸から変貌を遂げた明治の東京の風景を、光と影の表現を使った新しい感覚の木版画として発表するなど、若い芸術家に大きな影響を与えました。本展では、“最後の浮世絵師”とも呼ばれる清親の初公開のスケッチなど、貴重な作品を紹介します。

場所・問合せ 練馬区立美術館 ☎3577-1821

観覧無料

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM